

＜2026 年 6 月 限定サロン（通算 356 回）報告＞

2026 総会後の意見交換会

－2026 年度の事業と組織を中心に－

【日 時】2026 年 6 月 13 日（土）16：30～17：50（終了後はハイブリッド懇親会～19：30 ごろ）

【会 場】千代田区平河町二丁目 16 番 1 号平河町森タワー12 階事務所およびオンライン（Zoom）

【テーマ】2026 総会後の意見交換会－2026 年度の事業と組織を中心に

【参加者（8 名）】◎は NPO 会員、○は会員外のファミリー

＜対面（2 名）＞

◎関秀忠（弁護士／理事）、◎中塚 義実（理事長）

＜オンライン（6 名）＞

◎井上俊彦、◎熊谷建志、◎笹原勉（日揮台北支店長）、◎橘和徳（富山中部高校／理事）、

◎土谷享（KOSUGE1-16／理事）、◎本多克己（㈱シックス／副理事長）、

【懇親会からの参加者】◎茅野英一（元帝京大学かながわクラブ）、

【報告書作成】中塚義実

【概要（理事長より）】

特定非営利活動法人サロン 2002 の通常総会（15：00～16：30 予定）後に、恒例の意見交換会を開きます。NPO 会員だけでなく、多くのサロン 2002 ファミリーにお集まりいただき、「2026 年度（以降）の事業」と「持続可能な組織のすがた」を考える場にできればと思います。

以下について意見交換します。もちろんこれ以外のテーマも OK です。

1. サロン 2002 の事業－何を、どのように行うか

（第 11 回 U-18FLCC や公開シンポジウム②など、2026 年度に予定されている各事業を中心に）

2. サロン 2002 の組織－仲間の輪を広げ、深めるには？ 担い手は？

（財務構造の見直しと人材の育成・活用を中心に）

3. その他

総会での議論の続きになると思います。会員外のサロンファミリーの皆さんも、総会にオブザーバーとして出席されるとよいでしょう。遠慮なくご参加ください。

*****＜参考＞*****

【令和 8（2026）年度 特定非営利活動法人サロン 2002 通常総会】

1. 日時 令和 8（2026）年 6 月 13 日（土）15：00～16：30（予定）

2. 場所 東京都千代田区平河町二丁目 16 番 1 号平河町森タワー12 階事務所
およびオンライン ※「Zoom」（<https://zoom.us/>）を用いて開催します。

3. 決議事項（予定）

第 1 号議案 令和 7（2025）年度 事業報告

第 2 号議案 令和 7（2025）年度 決算 および 監査報告

- 第 3 号議案 令和 8 (2026) 年度 事業計画
第 4 号議案 令和 8 (2026) 年度 予算
第 5 号議案 役員の選任：令和 8 (2026) ～9 (2027) 年度役員
第 6 号議案 その他運営に関する重要事項
(当法人の「従たる事業所」を長野県に設置する件について)

【出席 (12 名)】

対 面 (2 名) ... 関秀忠、中塚義実
オンライン (10 名) ... 井上俊彦、熊谷建志、小池靖、齊藤宣彰、笹原勉、橘和徳、土谷享、
本郷由希、本多克己、柳井隆志

【委任 (11 名)】 議長 1 名☆、中塚 or 理事長 10 名★

木田圭亮☆、小島裕範★、小堀徹★、嶋崎雅規★、高原渉★、茅野英一★、仲澤眞★、
野村忠明★、松下徹★、守屋俊秀★、山内直★

正会員 26 名のうち 23 名が出席 (25 総会時は 18/24、24 は 19/23、23 は 23/27、22 は 21/29)

【オブザーバー参加】 なし

参考) サロン 2002 ファミリー (含 NPO 会員を含む全体数) は、現時点で $26+58=84$ 名
(2025 総会時は $24+55=79$ 名、24 は $23+54=77$ 名、23 は $28+61=89$ 名)

<2024～2025 年度役員>

理事：熊谷建志、齊藤宣彰、関秀忠、橘和徳、土谷享、中塚義実、本郷由希、本多克己
監事：小池靖 顧問税理士：松下徹

I. サロン 2002 の「これまで」と「いま」 (中塚義実)

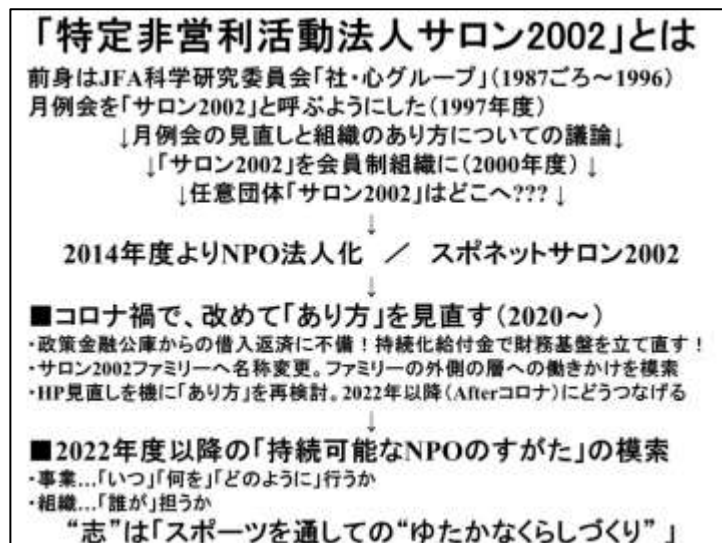
総会後の限定サロンー意見交換会では「これから」の話をしたいので、そこにつながる導入として、総会の中での「報告」の場で「これまで」と「いま」の話をさせていただきます。

はじめに、NPO 法人化の原点について。毎年見てもらっているスライドです。

特定非営利活動法人サロン 2002 の前身は、日本サッカー協会科学研究委員会 (当時) のサブグループ「社・心グループ」です。社会学や心理学に興味を持つ人たちの研究グループです。1987 年は私が筑波大附属高校に着任した年ですが、このころから定期的に研究会をやっていました。場所は、筑波大学附属高校の道路を隔てた向かい側のお茶の水女子大学体育館教官室。東京教育大 OB の杉山進先輩のところでやっていました。

それを「サロン 2002」と呼ぶようになったのが 1997 年度です。ここがサロン 2002 の誕生です。だから今年度末で 30 周年となります。

いろんなことがありましたが省略です。



2014 年度に NPO 法人サロン 2002 としてリスタートしました。その後もいろいろありました。とくにコロナ禍は大きなできごとでした。ホームページの見直しを機に「あり方」を再検討し、2022 年以降の「持続可能な NPO のすがた」を模索しているところで

す。
なぜ法人化しようとしたのかを確認しておきたいと思います。2013 年 4 月の月例会資料です（右スライド）。

- ・事務局機能の強化
- ・組織としての姿の見える化
- ・事業の担い手となる

この三本柱が、法人化へ向けて踏み出した背景です。ここが原点です。だからこれに沿って、「いまどうなっているのか」を評価する必要があります。

「事務局機能を強化したい」については、月例サロンで 2022 年度から「Peatix」を、2024 年度から会員管理で「会費ペイ」を導入し、2025 年度途中から会計ソフトを「弥生」に移行。事務局機能をシステムで補おうとしています。しかし事務局員は不在のまま、理事が手弁当でやっている状況です。機械にやってもらえるので安心と言えますが、そこに油断が生じることもあるのが事実です。

「組織としての姿がみえるようにしたい」については、ホームページ改修や、月例サロンを公開と限定に整理して告知を工夫していることなどが挙げられます。しかしサロン 2002 はいまだに「知る人ぞ知る」、あるいは「知る人にしか知られていない」組織であり、認知度は高まりません。ホームページ改修からすでに 5 年が経過しています。SNS の活用など、アイデアとしてはいろいろありますが、具体化には至りません。認知度アップのために次の段階へ踏み出さなアカンと感じているところです。

ただご存知のように、私はこの分野に明るくありません。そこで橘さんや新理事の井上さん、これまでずっと担ってくださっていた熊谷さんらを中心に進めてもらえればと思っています。

「事業の担い手としてのサロン 2002」についてです。月例サロンは通算 350 回を超え、公開シンポジウムも年 2 回、定期的に行われています。毎回の報告書は貴重な財産です。一方で、テーマ設定から企画・運営まで理事長への依存度は高いまま。本来はサロンファミリーが身近な話題を出し合うのが月例サロンの基本的な考え方でしたが、サロンファミリーからの申し出はなく、提案も出てきません。また報告書のあり方については引き続き検討が必要です。

サロン2002の法人化ー2013年4月例会資料(一部改題)

◆事務局機能を強化したい！

“プロ意識を持ったボランティア”と、“ボランティア精神を持ったプロ”で運営してきたが、いまのままだと、現状が限界。いま以上を求めるなら、事務局機能の強化は不可欠！
（“中塚個人商店”の限界）

◆組織としての姿がみえるようにしたい！

・他の組織と連携を図る際に、法的にも対等の姿で対応したい。
「いったいあなた方は何者ですか？」に応えられるように
・補助金等の受け皿となれるようにしておきたい。

◆事業の担い手としての“サロン2002”となっていきたい！

・月例会、公開シンポジウム、出張サロンなど、これまでやってきた事業は継続する
→ より規模を拡大して実施できる
・“ゆたかな暮らし”を志向する良い活動の担い手になりたい
例) D10リーグの事務局をサロン2002が担う → 可能か？
例) 「リサイクルプロジェクト」「スキッププロジェクト」を担う → 可能か？
例) 「オリンピック教育」「U-18フットサル」を他の機関と連携して進める → 可能か？

↓
「(NPO)法人化」にいつ踏み切る？ → いまでしょ！

NPOサロン2002の「いま」(2026年度)

◆事務局機能を強化したい！

「手弁当運営」が続くが、
・2022にPeatix導入。しかし同年度中に事務局員「退会」
・2024に「会費ペイ」導入。徐々に改善するが事務局員は不在のまま
・2025年度途中から、会計ソフトを「弥生」に移行
⇒ システム“導入”の功罪あり(システム“依存”にともなう心配?)

◆組織としての姿がみえるようにしたい！

2021年度中にHP改修。月例サロンは「公開」と「限定」に。ハイブリッド開催
・「知る人ぞ知る(知る人しか知らない)」組織のまま。認知度高まらず
・HPの改修から5年が経過。SNSの活用などには至らない。
⇒ 認知度アップのために次の段階へ

◆事業の担い手としての“サロン2002”となっていきたい！

月例サロンは通算350回を超える(含公開シンポ)。報告書は貴重な財産
⇒ テーマ設定は理事長に依存。サロンファミリーからの提案が少ない
⇒ 「報告書」のあり方は引き続き検討
11年目のU-18FLCCは、競技力向上にも底辺拡大にも貢献
⇒ 地域リーグに動きあり。適切な対応が求められる

11 年目となる U18 フットサルリーグチャンピオンズカップは、競技力向上にも底辺拡大にも貢献できています。一方で、地域リーグ創設の動きなど、いろんなことが始まろうとしており、適切な対応が求められます。このあたりを、今日の限定サロンで話していけたらなと思います。

II. 意見交換会ーサロン 2002 の「これから」

■テーマ① U-18FLCC の「これから」

- ・都道府県リーグと広域リーグの扱い
- ・長野県&千曲市との連携（長野支部の意義）

■テーマ② 月例サロン・公開シンポの「これから」

- ・7・8 月は「FIFA ワールドカップ 2026 をめぐって」
- ・9～11 月に公開シンポ「DUO リーグの 30 年」
- ・「サロン 2002」（1997 年 4 月創設）の 30 周年は？

■テーマ③ 組織と運営ー事務局の「これから」

中塚：ここからは 3 つのテーマ、とくに一つ目と二つ目について時間をかけて意見交換したいと思います。三つ目のテーマはずっと持ち続けている課題ですね。

■テーマ① U-18FLCC の「これから」

中塚：まずは U18FLCC の「これから」についてです。「これから」と言ってもずっと先の話じゃなくて、まずは今年度の話をしておきたいと思います。

本多さんから、右スライドの補足、共有できる情報があればお願いします。

本多：関西リーグはすでに開幕して、3 節が終わったところです。順調に進んでいます。

熊本と鹿児島県の肥薩リーグについては、11 月ごろからスタートし、12 月には優勝は決まらないと聞いています。代表を出せるように調整を依頼しているところです。

この 2 リーグと北信越リーグの 3 リーグが、新たに代表枠を獲得することになるかなと思います。

toto 助成は問題なく採択されています。ひとまず以上です。

テーマ①U-18FLCCの「これから」

★2025年度は「関東リーグ」枠を設けた

2026年度は「関西」「北信越」「九州(肥薩)」も

⇒ どのような“理念”で対応するか

例1) 日常的なリーグに対して等しく出場枠を設ける

例2) 競技レベルを加味する(前年度を参考)

例3) クラブ数/チーム数を考慮する

★長野県&千曲市との連携(長野支部の意義)

・会場を盛り上げるために(物販or屋台or)

・交流のために⇒ イベントの充実

・補助金の申請などの営業努力

★協会(FA)や連盟(FF)との連携(働きかけ)

・U-18フットサル(男女)の活性化のためにースケジュール問題等

中塚：2025 年度は関東リーグ枠で出場しているチームがあります。調べてみると 2023 年度の第 8 回大会からです。そこに今年度から関西、北信越、九州でもリーグができたので、代表枠をどうするか、どのような理念で対応するかが課題となります。16 チームの 2 泊 3 日は決まっています。16 枠をどう割り振るかという話です。全国各地に広がっていくと、16 では収まらなくなるのは当然です。実際そうなりつつある状況で、代表枠についての考え方のすり合わせをしておきたいということです。

これまでは 16 リーグに届かなかったので、一つのリーグから複数チームを代表として出してもらっていました。その際、リーグを構成するチーム数の多いところから順に出してもらっていました。同数の場合は、チーム数ではなくクラブ数の多い方が優先です。

16 リーグより多くなってきたときに、チーム数やクラブ数だけでなく、9 地域と各都道府県の位置づけ、例えばより上位にあるリーグを優先するのかなど、いろんな考え方が出てくると思います。ざっくりばらんに意見を出してもらえればと思います。

理事会では何度か話をしていますが、笹原さんは初めて聞かれたのではないかと思います。ここまでのところで質問はありますか。

笹原：意味は分かりましたけど。なんとコメントしたらいいかわからないところですね。

本多：実施要項には最初から「都道府県または地域」と書いてあります。2025 年に関東リーグから出場したのは、関東リーグができたから枠を設けたというよりも、最初からあった地域リーグ枠に該当するリーグが出てきたということです。今後は当然、地域枠を拡大していくべきだと思います。

中塚：橘さんは声を出せますか。

橘：北信越リーグについて話します。これまで富山県リーグとしてやってきましたが、過去に福井県のチームを受け入れたことがあります。そのときは富山県リーグ代表として、リーグチャンピオンズカップに福井県のチームが出場しました。

その頃から、県とか地域ということにこだわりはなかったんですが、ここ数年はコロナでの移動制限があったりして、富山県内のチームで進めてきました。他県との交流をリーグチャンピオンズカップで続けていく中で、競技力向上という観点からは、いま北信越にある他県のチームとの交流を進めていかないといけないと思っております。北信越リーグという名前にはしますが、チーム構成は富山県リーグのままでやりますので、今まで培ったものを北信越の他県の皆さんに広げていくことができればと思っています。

中塚：橘さん周辺での取り組みのように、ボトムアップで底辺から組織化するのが本来あるべき姿です。すごくいいと思います。ただ、どのリーグに何枠割り振るかという話になると、利害関係が出てきて難しくなるかもしれません。例えば 2025 年度の大会では東京 2 チーム、神奈川 3 チーム、千葉 1 チームが関東から出てきましたが、どのチームが関東リーグ代表で、どのチームが都県代表なのかは、パッと見たところわかりにくい。主催者側の考えをしっかり持ち、地域の皆さんと共有しておかないと、ごたごたの元になるのは嫌だなというのがあるんです。

リーグ戦を定期的に、しっかりやっているところに対して等しく出場枠を設けるという考え方があります。一方で、より上位のリーグに対して枠を設けるという考え方もあります、このあたりをどのように整理していけばよいのかについて、いかがでしょうか。

本多：いまの要項で規定しているルールを申し上げますと、等しく出場枠を設けるが大前提です。16 チームで開催することにしているので、16 リーグ以上ある場合、クラブ数、チーム数で決定することにしています。16 チーム以下の場合、例えば 15 リーグしかなかったら、残りの 1 枠は、クラブ数、チーム数の多いところに 2 枠あげますよということです。いまのところ競技レベルについては、要項上も実際上も考慮していません。いま言われたような、関東リーグと東京都、神奈川県リーグといった場合に、関東リーグで取るのか東京リーグで取るのかということは、これも最初から中塚さんとかがい

メージしている方針ですが、各地域の状況にできる限り対応し、その中で競技レベルが反映される可能性もあるということだったと思います。

笹原：質問ですけど、例えば関東リーグというのは、東京とか千葉とか神奈川とか、そういった県リーグの上位のチームが関東リーグに上がるような、サッカーと同じような感じなんですか？

中塚：これがきちんとはできてないんです。関東リーグはいま、各都県リーグをやっていない時に試合日を設定しているので、強いところは両方出ています。だからそういう意味では、強いところは二度チャンスがあるとも言えるわけです。

これまでは、特に関東に関していうと、神奈川の大友さんが関東全体を見渡して、関東 1 位のチームが都県リーグで何位だったかをみて、上位進出したチームがリーグチャンピオンズカップに出られるようにバランスよく配分していたわけです。だけどこれからどうなっていくのかは少し心配な部分もあり、今日話題に乗せた次第です。

笹原：県リーグがないから関東リーグに出ているチームもあれば、両方出られるチームもありという感じですね。

中塚：そうです。関西はそんな感じで始まったのだろーと思います。もともと関西リーグとしてやっていたものを、大阪、京都、兵庫の各府県でできるようになってきたので別々にやるようになったのですが、例えば大阪でチーム数が減ってしまっただけでリーグ戦とは言えない状況になりました。優勝経験もある F リーグ下部組織のシュライカー大阪などが出場枠を得るチャンスがなくなったわけです。これではいかんということで、関西の人たちが連携して、広域でリーグ戦をやろうとなっていていまに至るわけです。だから、広域リーグが始まる背景もきっかけも地域ごとに異なるし、進め方も違うと思うので、このあたりをリサーチせなアカンなと思っているところです。

初めて話を聞く方にはわかりにくいかもしれないし、話を聞いていた人にとってもいい落としどころが見つからないかもしれませんが、本多さんと私が中心になって情報を集め、現場の人たちと連絡を取りながら考えていきたいと思います。

幸い我々は、オフィシャルの競技団体ではありません。協会でないし連盟でもない。だから我々なりの、より現場に近い判断ができるはずですよ。いい落としどころを見つけていきたいです。

土谷：理事に在ること自体がオブザーバーみたいな分野の人間ですが、中塚さんたちの考えには、オフィシャルなリーグに育てていこうという腹積もりもあるんですね。

中塚：そうですね。

土谷：すると、オフィシャルの競技団体ではないと言いながら、そうじゃないって言うことのズルさを自覚するべきじゃないですか。どちらかに振り切らないと、たぶんついてくる人が混乱するだけだと思うんですね。

別に市町村単位でもいいし、関東っていう単位でもいいし県でもいい。それぞれの地域リーグの強い人たちが集まるという面白さが U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップなのかなと思ってんですけど、一方でオフィシャルな大会に育てようとしているから、なんか中途半端でわからなくなってくる。DUO リーグがかつてそうであったように、公式戦に繋がった瞬間、昇格問題が出てきて、本質と違う課題が出てくるのと同じようなことが起こるんじゃないでしょうか。

中塚：そうですね、おっしゃるとおりです。

本多：いまさに言っていた通りで、中塚さんがいつもおっしゃっている、「公式なものになっていくと、良さが失われる点もある」というようなことは確かにあります。いま中塚さんが言っておられる、今後出て来そうな問題点、曖昧なところがあるんですというのは、まさにその部分が現状の良さなのだと思います。公式ではできない曖昧さが。

この大会の前に「選抜大会」をやっていました。リーグなんてそもそもなく、U-18 大会がなかった時代です。まずサロン 2002 で単独チームの大会を作り、それが JFA 主催の選手権大会になったので、じゃあサロン 2002 では次に選抜大会をやりたいということで始めたんです。それが日本フットサル連盟主催となりました。ですから、いままでサロンで作った 2 つの大会は、日本サッカー協会、日本フットサル連盟主催大会につながったということです。

そうなったときに、日本連盟、日本協会ではできないが必要なものは何だろうということで構想したのが U-18FLCC です。まだ全国各地の都道府県や 9 地域では開催されていない、フットサルリーグのチャンピオンが集まる大会をつくろうと。協会や連盟では行われていないので、ひとまずはサロン 2002 がその隙間を埋めていきたいと思いますということで開催しています。これも当初から、9 地域、あるいは全都道府県で開催されるようになったら、ぜひ協会や連盟で主催してくださいということは、以前から話もしています。そういう思いで作ってきたということは間違いありません。

実は日本フットサル連盟からも、この大会は本来フットサル連盟でやるべき大会だということも、公式にコメントをもらっています。順調にフットサルの文化、リーグの文化が普及していけば、将来的にはサロン 2002 の手を離れる大会になっていくのだろうというところですよ。

熊谷：ちょっといいですか。今のいろんな個別の課題を個別に解消していく形になると、やはり右往左往しているように見えてしまうと思います。私としては、あるべき姿として、例えば 9 地域の代表チームによるものを目指しているというような、目指すビジョンを示し、しかしいまはうまくいかないので、現状の運用としてこのようにしているということを示せばよいのではと思いました。大きなビジョンとして目指すものを示し、その過程で今はこうなっているのだということを紐付ける。大小いろんな問題は運用のところで出てきた問題であり、大きなビジョンに向けた過程で対応しているのだという形にすべきではないかと感じました。

中塚：本多さんの補足に関係するけど、最終的にはオフィシャルな大会になればと考えています。そうになったらサロン 2002 は一歩引いて、協会や連盟の主催でやってもらいたいということです。

そうなった場合、これは「長野県や千曲市との連携」とも関係しますが、千曲市とタイアップした U-18 フットサル大会を、サロン 2002 として続けていきたいというのももう一方であるんです。つまり、オフィシャル化を目指す。そしてオフィシャル化した場合の担い手は我々ではなく、協会や連盟などの競技団体にやっていただきたい。我々はオフィシャルなところではできない、あるいはそこが見落としてしまうところに光を当てていくことをやっていきたいという、ちょっと欲張りな感覚を持っているわけです。

そのことも視野に入れて、「長野県あるいは千曲市との連携」について、少し意見交換しておきたいと思います。長野支部の意義とも関係します。具体的には、今年度、年明け第 11 回大会において、会場を盛り上げる工夫として、例えばお土産屋さんや屋台を出してもらおう。信州千曲観光局の近藤さんとも去年から話していることですが、それはできるのではないかと。あるいは交流イベントの充実など、何かできないだろうかと話しています。

しかし新しいことをするにはお金がかかります。補助金の申請などの営業努力。こういうことも視野に入れて、長野支部の創設という話になっているわけです。

井上さん、いかがでしょうか。

井上：いまちょっと調べているのが、ご存知ない方がいらっしゃるかもしれませんが、長野県の地域発元気づくり支援金というものです。今年度の大会には間に合いませんが、令和 9 年度に開催される事業についての説明会が 10 月にあるので、それに顔を出そうと考えています。どこまでもらえるのか、どのぐらいが自己負担になるのかはわかりませんが、まずは調べてみたいと思います。

その過程でのご報告です。今までは長野県と長野県教育委員会の両方に後援していただきましたが、教育委員会はスポーツ関係にはあまり関わらなくなったようです。別の話題ですが、長野県の中学校の部活は今年でなくなります。だから教育委員会がスポーツを所管することが、たぶんないんだと思います。長野県の方も、長野県のスポーツ振興の部署が後援については受けますという体制になっていくらしいです。ということで、教育関係というか、教育的な意義という部分は薄まるような気がします。そういう情報を得ながら、千曲市との連携、地元の盛り上げに取り組んでいきたいと思います。

千曲市の方がたくさん見に来るというよりも、出場チームの関係者、保護者らがたくさん来られるので、その方たちに PR する場として、千曲市側に意義を感じてもらい、何かやってください、やりませんかという働きかけができると思います。長野県に関しても、問い合わせをした時に、長野県の所管の部署から「どういうきっかけで全国大会をここでやってるんですか」という質問が来ました。中塚さんに答えていただいたんですが、ひょっとしたら長野県の職員の人すら認知されていないんじゃないかと思いました。

長野支部の意義というところでいうと、広報みたいなのところも頑張ってやっていかなきゃいけないなと思っています。

中塚：ちなみに、日本フットサル連盟主催となると、おそらく全国持ち回り開催になると思います。「トリムカップ」というレディースフットサル大会がそうでした。高知県サッカー協会成田十次郎先生が会長をされていた時、「レディースフットサル大会を高知県でやろう」としてはじまったものです。西日本のチームに声をかけ、初めの数回は高知県でやりましたが、「連盟主催の全国大会」となり、日本トリムがドカンとお金を出し、レディースの全国選抜大会になりました。全国大会になると高知県でやり続ける根拠がなくなってしまい、全国各地での持ち回り開催となっています。おそらくリーグチャンピオンズカップも、日本連盟主催になるとそうなると思います。

だから余計に、リーグチャンピオンズカップがオフィシャル化した場合、それとは異なる、遊び心に満ちたイベントを千曲市に残していきたいということを漠然と考えているところです。

土谷さん、お分かりいただけたでしょうか。

土谷：よくわかります。けどなんか、うーんっていう感じですね。協会主催でやるという方向性は皆に伝えられていると思うんですけど、やっぱり「遊び心」と「強くなりたい」ということは違うものだと思うんです。それをどのように折り合いつけていくのかというのを勉強させてもらっています。

中塚：そうですね。非常に深いテーマかもしれない。

土谷：なぜそこまでオフィシャル化にこだわるのかということがまずわからないんです。たぶん地域、千曲でいまお世話になってやってるわけですけど、千曲で育てて協会にと、ある意味その器を持っていかれるとなると、言い方は悪いけど帝国主義的な振る舞いですよね。

本多：大会の形がどうかというところから話がスタートしたんですけど、本当はその前があります。元々はU-18年代の高校生がフットサルをする場がなかった。だからまずはそれぞれの地域でやってもいい、単独チームのトップの大会を作りましょう。そうすると地域のフットサル、U-18 フットサルが活性化されますね。次は、それができたら選抜大会です。そしてリーグを作ってもらいましょうという順序です。だから、日本一を決める大会を作りましょうということが先にあるのではなく、いま僕たちがやっているこの大会は、地域でU-18を日常的にプレーする場を作りましょうというのが目的です。それを権威あるものにして効率的にやってもらうために、協会や連盟主催に持っていくということなのだろうと思います。そこまで行くと、サロン 2002 では抱えきれなくなっていくと思います。公式がいい悪いということではなく、全国にリーグを作っていくという目的がまずあるということ、を、先ほどの僕からの説明で抜け落ちていました。

井上：いま思ったのは、この前の議題のところも、理念としては日常のフットサルの場、リーグを作ってくださいということです。きちんとリーグを作って、高校生にフットサルをやる場を設けた結果、この大会に出られますよという意味なのだと思います。「甲子園」って言ったら変ですけど。なので、出場枠に関しても、きちんと都道府県リーグをやっているところに対して、枠が必要かどうかを上げてもらい、16 チームに足りないとか 16 を超えた時に調整するというのが原則なのかなと思います。

中塚：当面の対応と、将来的な、あるいは本質的な対応と両方ありますが、こんな感じでざっくりばらんに話しながら、皆で知恵を出しながら、遊び心を忘れないようにしながらやっていけたらと思います。ありがとうございます。

■テーマ② U-18FLCC の「これから」

中塚：次のテーマに移りたいと思います。今年度の月例サロンと公開シンポについてです。

ここ数日、笹原さんや小島さん、明日からメキシコに一緒に行く NPO 会員ですが、こういう人たちとメールや ZOOM でやりとりしながら 7~8 月の月例サロンでワールドカップを取り上げる話をしています。7 月 18 日(土)は、日本ヤタガラス協会総会で那智勝浦町に出向くのですが、その前日に、大阪で W 杯をテーマに月例サロンをすることで決まりました。場所は調整中です。

8 月下旬には、徳田仁さんがやっているスポーツバー「ブラセリエ」で、W 杯の振り返りを計画中です。

徳田さんは 1 ヶ月以上北中米に行っていますが、7 月下旬に帰国し、「8 月下旬ならいいですよ」と言っていました。笹原さんも行かれるし小堀さんもすでに行っているし。そういう人たちの旅行記ですね。7 月も 8 月も、軽く飲みながらできればいいかなと思っています。

公開シンポジウムは 5 月 2 日に今年度第 1 回をやっていますが、秋には DUO リーグ 30 周年にからめたシンポジウムを企画しています。ようやく本日、DUO リーグ側から返事がきて、10 月 10 日か 17 日、いずれも土曜日なら大丈夫とのことでした。都内で行います。

テーマ② 月例サロン・公開シンポ

★7・8月は「FIFAワールドカップ2026をめぐって」

・7月17日(金)@大阪

「メキシコに行ってきました」 小島・中塚

・8月下旬 @ブラセリエ

「それぞれのFIFAワールドカップ」 徳田・笹原ほか

★9~11月に公開シンポ「DUOリーグ30周年」

・中塚の「講演」と「座談会」の2部構成

現チェアマン、元事務局長(A-Goalの紹介も)、卒業生らを想定

★第11回U-18FLCCの総括(1月)

★サロン2002の30周年(3月?)

★サロンファミリーからの話題

これ以外は、サロンファミリーからの話題を募りたいと思います。サロン 2002 自体も今年度末で 30 周年です。

ということで、今年度の月例サロン公開シンポについて、思うところをご意見いただければと思います。

笹原さん、ワールドカップはいつでしたっけ？ 行っているのは…

笹原：23 日に出発して 7 月 5 日に戻ってきます。試合観戦はダラスの 2 試合で、6 月 25 日の日本 vs スウェーデン戦と 7 月 3 日のノックアウトステージ 1 回戦ですね。その間はメキシコをブラブラ旅行する予定です。8 月下旬は大丈夫です。

中塚：日本にはまだ戻って来ないですね。

笹原：台湾からオンライン参加です。参加というか、話題提供をしながらですね。これまでに 3 回ぐらい報告しているので、同じようなやり方で…。

中塚：会場については個人的にアイデアがあります。阪急電車の石橋阪大前駅から大阪大学に行く途中に中塚の実家があるんです。そこは以前から、学生たちがゼミで使え、いろんな人が交流できるような場所というつもりで「コミュニティルーム」と呼んでいた部屋があります。40 年ほど前には実際に阪大文学部の学生たちが「読書会」で使っていて、うちの両親も仲間に入れてもらっていました。ここ 20～30 年はほとんど使われていませんが、ここをサロン 2002 で使えないかということを以前から考えていました。他によい会場が見つからないようでしたらそこでやってもいいかなという気がしています。ただ個人宅なので、プライバシーの問題はあります。そこでやる場合は「限定サロン」になるかなとは思いますが、今後の候補地として考えています。

「DUO リーグ 30 周年」のシンポジウムについては、細かな中身はまだ考えていませんが、先ほどの話と重なります。定期的に遊べる仕組みとして、ユースサッカーリーグを 30 年前に始めました。理念とかノウハウも含め、いろんなところで発信し、いまではオフィシャルリーグとして東京協会、日本協会傘下で展開されています。年代ごとのリーグ戦が整備されているのもご存じのとおりです。けど、整備はされたけど遊び心が失われているんじゃないかなと思うのが、30 年間やってきた中での問題提起です。

シンポジウムとしては 2 部構成、前半は私が、理念から問題提起まで小一時間話をさせてもらいます。後半は、現チェアマンや元事務局長の岸卓巨さん、あるいは DUO リーグを経験されたいろんな学校、クラブの卒業生に来てもらって座談会。こんな感じで公開シンポジウムを計画しています。

皆さんからアイデアやご意見を出していただければと思います。

熊谷：DUO リーグのシンポジウムは、リーグ戦が整備されてきた過程のところと遊び心の話があるかと思います。確かこの前の理事会では、いまの DUO リーグを主導されている方はあまり乗り気でないようなことをお聞きしたかと思います。そのあたりを踏まえ、どのような構成、進行をお考えですか。

中塚：今年の 4 月から第 4 代チェアマンが就任しました。昭和第一高校の永井直樹さんです。初めて元 DUO リーガーがチェアマンに就任しました。彼が乗り気でないわけがありません。ただ、シンポジウムのようなことを企画・運営するのは苦手ですと言っておられたということです。

この企画については 4 月ごろに打診していたのですが、ようやく昨日、返信がありました。動きは遅いですが、乗り気じゃないわけじゃありません。

熊谷：わかりました。僕はいま東京都の東部地域に住んでいて、このあたりでは「リバーサイドユースリーグ」という形で DUO リーグにならって高校生のリーグ戦をやっています。

リーグ戦が整備されていく過程で、いろいろできあがっていく話は面白いと思ったんですけど、いまの DUO リーグでは「遊び心」をどのように捉えているのかが気になりました。もしかすると、そういう要素はなくなってしまうのではないかと。先ほど僕が言った、ちょっと乗り気でないのかなという話が絡んでいるのなら、いま現場で取り組んでいる人たちの意向と合った形でシンポジウムができるのかなということが気になった次第です。

中塚：DUO リーグはおそらく、いまは「普通のリーグ」になっていると思います。他の地域でやっているのと同じように、同じレギュレーションでやっている感じですね。まずは足並み揃えてしっかりやっっていこうということです。東京都全域にこういうものが定着したのは成果だと思います。しかし、先ほどから出ている話とつながりますけど、そうすると「トロフィーを作ろう」の話や「オーバーエイジの出場もあり」といった話が出てくる余地はどんどんなくなっていくのは確かですね。

熊谷：リバーサイドユースリーグの話を聞きましたが、僕が関わる少年サッカーチームを卒団して、高校生になったり、クラブユースに所属してリバーサイドリーグでやっている子がいます。「試合やってます」という話は聞くけど、現場の人たちは大変そうで、リーグ戦をこなしていくのに精一杯といった感じです。試合をこなすことで終わってしまっている。いまおっしゃった「普通のリーグ」の運営のところが大変だという感じになっているように伺えました。

なかなか「遊び心」には至らない。実現するには少しハードルが高いんだろうなと感じています。

中塚：おっしゃる通りですね。

高体連の地区割りと言うと、東京都全域を 8 つの地区に分けており、リバーサイドは第 1 地区、DUO リーグは第 2 地区のリーグ戦です。東京の東の方で、指導者間の交流もあったので、リバーサイドリーグは DUO リーグをモデルにして、一所懸命というか、面白がってやってくれていました。プログラムやホームページを作ったりするのも、リバーサイドリーグにその分野の達人がいて、しっかりやっておられました。そのうち、DUO リーグとリバーサイドリーグの上位チーム、強いところで集まって「E (East) リーグ」を作ればばらく一緒にやっていたんです。ボトムアップの組織化です。これを他の地区でもやってもらい、徐々に上へ伸ばしていき、底辺から東京都全域のリーグを組織していこうと動いていましたが、他の地域との足並みがそろわず頓挫しました。他地域にはそこまでやってくれる人がいなかったことがあります。そうこうするうちに、東京都全域の公認リーグの組織化は、トップダウンで進めることになりました。E リーグはそのときになりました。

こういう話も、先ほどの U-18FLCC の話とつながってくるような気がしますね。

シンポジウムの登壇者候補には、元事務局長の岸卓巨さんもいるんですが、アフリカの支援から始まった「A-GOAL プロジェクト」のことも紹介してもらおうと思っています。ケニア・ナイロビのスラム街にキベラ地区というのがありますが、その子どもたちのサッカーリーグを、DUO リーグをモデルにしてやっているんです。それがスポーツ庁の長官表彰を受けたということですが、こういう副産物が生まれてきたことも、シンポジウムで紹介したい。ユースリーグの波及効果ですね。どういうところに、どんな形で広がっているのかが紹介できたら面白いなと思います。

熊谷：いろいろ派生したところのお話は、設立時の趣旨にあった「遊び心」が広がった結果として紹介できるのであればいいかなと思います。

笹原：ちょっと気になったのは、始まりの時には遊び心があってスターとしたのはよくわかりますが、そこからいろいろ変わってきて、遊び心がなくなっていきましたと。今回の DUO リーグ 30 周年の中では、元々はこういう遊び心でやっていたんだぞという話をするように聞こえたんです。

個人的に「遊び心」は好きなんですけど、遊び心を持ってやるということが絶対に正しいわけでもなく、そうじゃない考え方もあっていいと思います。いまの人たちは、何らかの理由というか、何となくの流れの中で、遊び心がないままやっているの、「遊び心を持たなきゃいけないんだぞ」と、説教調に聞かされるのは鼻白むかなというような、ちょっとした懸念を持ちました。

中塚：そこは注意しないといけないですね。

笹原：あと、DUO リーグがきっかけになっていると思うんですけど、いまでは全国的にリーグが広がってるじゃないですか。その中で DUO リーグは、東京都の中でどういう位置付けになっているんでしょうか。DUO リーグの参加チームが、例えば DUO リーグで 1 位になったら上のリーグに行くとかというのはあるんでしょうか。

中塚：2004 年度に公認化はストップしましたが、その後改めて上からと下からの整備が進み、2011 年に、上から下まで全部繋がったんです。一番上は、いまでは東日本と西日本に分かれて「プレミアリーグ」をやっています。JFA 主催で。その下は 9 地域ごとに、関東プリンスリーグなどをやり、その下に都道府県リーグがあります。東京都では T リーグという名称で、T1 から T5 まで、東京都全域のリーグがあり、その下に地区ごとのリーグ。その一つが DUO リーグということです。DUO リーグもいまでは 1 部、2 部、3 部に分かれて、それがほぼ年間通してやっています。だいたい 3 月ごろに始まって、ずるずると 9 月末、10 月ごろまでやってますね。

笹原：では DUO リーグのチャンピオンが、その上の何とかリーグに入るわけですか。

中塚：そうですね。去年のシンポジウムで学習院の玉生さんが言ってましたが、去年まで DUO リーグの一つ上のリーグ、東京都全域リーグの一番下のカテゴリーは「地区トップリーグ」という名称で、オフィシャルではない、DUO リーグの続きのようなリーグだったんです。参加費も DUO リーグはだいたい 1 チーム 2 万円ぐらい。それは僕がチェアマンをやっていた頃からそんなに変わってません。地区トップリーグもそんな感じでやっていましたけど、オフィシャルリーグになった途端、参加費が 10 数万円に跳ね上がります。オフィシャルの審判の派遣費などがかかるわけです。こんなことでいいの、ということです。サッカーだけでなく、フットサルも同じようなことがあります。オフィシャルリーグになって、公式な人たちが関わるようになると、金がかかるわけですね。

笹原：DUO リーグって、1 クラブから何チーム出てもよかったじゃないですか。いまもそうですか？

中塚：いまもそうです。

笹原：すると、DUO リーグの 1 位というのは、一つのチームであって、クラブじゃないですね。

中塚：いや、クラブです。というか、クラブというものを育ててくれという考え方です。たとえ学校であったとしても、多世代型のクラブとしてしっかり育てなさいということを、ずっと言い続けてきました。クラブの中のトップチームが、例えば東京都リーグにいて、下のチームは DUO リーグ 2 部に

いるというようなことは普通にあることなんです。そして、各カテゴリーに見合った参加費を出さないといけない。

笹原：各クラブは、1 軍・2 軍で分けてるんですか？ 同じ学校の中で。

中塚：だいたいそうですね。

笹原：すると、日本サッカー協会の登録制度上は、そういうのはチームになるんじゃないですか。なんとか高校サッカー部とか。

中塚：複数チーム出している場合でも、サッカー協会には第 2 種、高校生年代のチームとして、複数チームをひとまとめで登録しますね。リーグ内ではチームごとに、誰がどのチームかがわかるように登録します。リーグ登録とサッカー協会登録が二段構えになっているという感じですね。

例えば以前、筑波大学附属高校は A チームと B チームの 2 チームを出していました。全員がサッカー協会に、筑波大学附属高校サッカー部として登録します。高体連登録も同じです。これに加えて DUO リーグでは、筑波 A で登録する者と筑波 B で登録する者を分けて登録します。これは DUO リーグの中の話です。誰がどのチームかは、どこかのタイミングで決めるわけですね。

笹原：例えば筑波大附属高校の A チームと B チームが別のリーグに所属してるのはありなんですか？

中塚：もちろんあります。

笹原：うーん。いいのか。そういうのは、もう少し上のレベルでも、例えばマリノスユースとかにもあってもいいのか。わかりました。

中塚：ユース年代のプレーヤーって、急に化けたりするわけです。例えばこの子は B チームにいたけれど、急に良くなって A チームで使いたいとなってくるんです。けど、リーグ期間はチームを固定するのが本来のあり方です。A と B がしょっちゅう入れ替わるのではなく。

当初考えていたのは、学校の 1 学期と 2 学期にそれぞれリーグ戦をやり、メンバーの入れ替えはリーグ期間が終了したらやってよい。3 学期はオフシーズンとプレシーズンということです。ところがこれを年間通してやるようになり、ずっと同じチームで引っ張ろうとしています。ホーム&アウェイで、年間通してというのはいいんですが、いま言ったように、B だった者を A に上げたり、A から B に落としたりということも当然あるわけだから、いまは移籍期間を設けてるんです。「ウィンドウを開く」というような、海外サッカーと同じ言い方をしていますが、それを採用しているようですね。ウィンドウが開いている期間は A と B を入れ替えてもいいですよということですね。

他の地域でも大体そんな感じでやっていると思います。

熊谷：笹原さんのいまの話って、U-12 の少年でも全く同じです。リーグ期間中は登録されたメンバーが基本的には固定です。A チーム、B チームがあったとしても、登録変更手続きをしない限りは固定です。U-12 では前期・後期があるんですけど、その間に登録し直して入れ替えるという形ですね。

中塚：随時登録更新はできるんですか？

熊谷：そうですね。変更手続きをした上で、B から A に変更というような形を取ります。

笹原：中塚さんの話は、変更手続きを基本的にはできないような制度ですね。それをオープンウィンドウとかいう時だけできるという話なんですか。

中塚：これは上の方のリーグの話だけだね。DUO リーグでは割と緩やかにやっていると思います。その代わり、A から B に移りましたというのは、DUO リーグのメーリングリストで共有することになっているようです。オフィシャル化していくと、こういう話ばかりがメインになってきます。どんどん話が細かくなっていく。

熊谷：そうなんですよ。

中塚：1996 年に DUO リーグをスタートし、夏休みにアトランタオリンピックがあってオーバーエイジ 3 名までありというのを発見して、後期リーグから DUO リーグに導入しようなんてやっていたのが懐かしいですね。

遊び心の押し売りはしないようにはするけれど、ただ、自由な発想をする習慣自体が、大人も子どももどんどんなくなっているような気がしていて、すごく心配なんです。

他のことについてはどうでしょう。サロンの 30 周年についても気になっているんですけど。20 周年の時は公開シンポジウムをしたんです。10 周年の時は、サッカー居酒屋「いなば」で祝賀会。宇都宮徹一さんの進行で飲み会をやりました。年度末で 30 周年なんです。

熊谷：いまま登記上、NPO サロン 2002 は錦糸町の、以前居酒屋があったところになってますか。4-4-2 でしたっけ。あそこで何かやった記憶があるんですが。

中塚：登記上はその近くのオフィスですが、「フットボールサロン 4-4-2」では何度もやりましたよね。ただ、あそこはいま使われていないんです。あのビル自体が立ち入れなくなったようで。

■テーマ③ 組織と運営—事務局の「これから」

熊谷：運営みたいところで話をすると、サロン 2002 は長らく筑波大附属高校で月例会をやっていました。居場所みたいな、集まる場所がそこだったということです。いまそういう居場所がない形になっています。何かできないかなと思っていますところ。

7 月のワードカップ報告会で、大阪で場所がないかという話がありましたが、やはり「サロンとえば場所はここだ」というようなところがほしいですね。毎月どこかに集まることができればいいと思います。コロナ禍でオンラインになってから、僕も今日はオンラインであれば参加できるというところですが、本来は対面で集まれる人たちが、「お久しぶりです」と言いながら、雑談ふういろいろ話をしながらやっていたのがサロンの雰囲気だったと思います。サロンだったらどこどこみたいな場所が、どこかに確保できればと思っています。

中塚：おっしゃるとおりですね。先ほども少し言いましたが、大阪の実家にあるコミュニティルームで何かできないかなとは思っています。先ほどは遠慮がちに、もし他に場所がなかったらという言い方をしましたが、本当はトライしてみたいなという気もしています。

事務局のこれからといった話もありますし、いま熊谷さんが投げかけてくれたような話もあります。残り時間を使って運営面の話をしたいと思っています。

土谷：総会での会計資料を見ていて、収入のカテゴリーで業務委託の枠があったじゃないですか。その部分を生かせるようにしていかないと、事務局長も置けないんじゃないかなと思います。それぞれの事業を小さくいろいろやっているから、事務局長が逐一細かな事象について把握するのはものすごく複雑なタスクになってくると思うので、ちょっとかわいそうだなと思うんです。

まずそういう前提があって、そのうえでいま聞く通り、U-18FLCC から DUO リーグの話など、改めて熊谷さんや笹原さんの話を聞いて思ったんですけど、この 30 年、中塚さんを取り巻くサロン 2002 や DUO リーグって、特に中塚さん界隈は、育成年代のフットボールに対してものすごく重要な仕事をしているんだと思います。一つは DUO リーグで、もう一つは U18 フットサルリーグチャンピオンズカップです。DUO リーグはすでにオフィシャルなものになり、U-18FLCC もオフィシャルを狙っていくということであれば、やはりそれはオフィシャルなところから、福祉的な用語になっちゃうけど、アウトリーチとしての仕事、要するに制度から漏れているけど、スポーツをしたい人たちに対して参加する機会をずっと与えてきたと思うんです。それが地域リーグだったり、DUO リーグだったり。全部同じリーグですけど、そういうことに結実していると思うんです。そういうリサーチとシステム開発、そういうことを暗にやってきているのであって、その部分をちゃんとビジネス化していくことで、事務局とかもう少し明確な社会の中での位置づけが見えてくるんじゃないかなと思いました。それがオフィシャルにつながったら手放せばいいわけであって。

たぶんいまは中塚さんの周りが育っている証拠だと思うんです。やっぱり本来の制度から漏れている人たちはいまもいるはずなんです。だから、そういうことが出てきたら、一旦そこは手を離して、DUO リーグの成長もちゃんと喜んであげることが次の仕事であって、また持つてる人を探す旅に行かなくちゃいけないんじゃないでしょうか。

そのように思いました。

中塚：そうですね。ありがとうございます。

別に何らかの結論を出そうとしているわけじゃないんだけど、まあたまにはこんな感じで意見交換会というのも良いだろうと。ただ本当は、普段話ができない人たちにもこういうところに来てほしいなと思います。そういう場を、改めて設けられればなと思います。

では残られる方はこのまま残って、飲み物も用意しながら、もうちょっと続けましょうか。

一旦「限定サロン」はこれにて終了です。

6 月中に東京都に書類を提出しないといけません。それは帰国後にこちらでやります。それ以外のところでもいろいろお力添えいただきますが、よろしくお願いします。

ノンアルコールの部はこれにて終了です。ありがとうございます。

レコーディングも一旦止めますね。

(そのまま会議室でオンライン懇親会)